

## 令和6年度 新登録者 登録証交付式を行いました

5月11日(土)、宮城県手話通訳者、要約筆記者として新たに登録した方々に登録証を交付しました。新登録者の皆さんは、宮城県保健福祉部障害福祉課 長山有紀課長補佐より登録証を受け取り、一人ずつこれからの抱負を述べられました。

### 手話通訳者

かわはら ゆきこ  
河原 由貴子 (仙台市)

ごとう せいこ  
後藤 静子 (石巻市)

さわだ いくの  
澤田 郁乃 (大河原町)

すがわら かずこ  
菅原 和子 (仙台市)

よこさわ さとみ  
横沢 哲美 (仙台市) ※転入



### 要約筆記者

あつはた ひろこ  
安津畑 博子 (仙台市) パソコン

うえむら じゅんこ  
植村 純子 (塩竈市) パソコン

うらた ななえ  
浦田 七恵 (塩竈市) パソコン

さくらい あけみ  
櫻井 あけみ (大河原町) 手書き

たなべ ゆうこ  
田名部 優子 (仙台市) 手書き

はら さと か  
原 咲冬花 (仙台市) パソコン

むなかた ふみこ  
宗像 史子 (仙台市) 手書き・パソコン

よこやま かずは  
横山 一葉 (東松島市) 手書き

※他1名



## 宮城の情報保障者が大集合 さあ、みんなで事例検討！

登録証交付式の同日、宮城県に登録している手話通訳者、要約筆記者、盲ろう者通訳・介助員の合同現任研修を開催し、105名が参加しました。



テーマは「たかが事例…されど事例…事例から見えてくる自分の判断基準」。今年度も講師に高木真知子氏をお招きして、昨年お話しいただいた『デマンド・コントロール・スキーマ』を踏まえ事例検討を行いました。

「講演の通訳中、講師が突然通訳者に話しを振ってきたらどうする？」など、通訳現場で遭遇するさまざまな事例が提示され、4人ずつにわかれ意見交換を行いました。

この事例検討は、この時はこうするべきという正解を決めるために行うものではなく、話し合うことで自分の判断の傾向を知ったり、他者の考えを聞くことで自分の行動の選択肢が増え、現場でより良い判断ができるようになったりするためのものです。ろう者の通訳・介助員も参加していたため、こんな時ろう者としてどう感じる？どう見る？という意見を聞くこともでき、より多様な価値観に触れる機会となりました。手話通訳者、要約筆記者、通訳・介助員が隔てなく、活動歴も関係なく学び合える、貴重な時間でした。

